

河北潟干拓地農業の抱える問題と将来展望 ー営農者対象アンケート調査からー

川原奈苗・番匠尚子・高橋 久

河北潟湖沼研究所

〒 929-0342 石川県河北郡津幡町北中条ナ 9-9

要約：河北潟干拓地の営農者を対象にアンケート調査を実施した。268 枚を配付し 82 名の回答が得られ、回収率約 30.6% の結果が得られた。生産物の販売方法として、市場に出荷するとの回答が最も多く、販路を複数持っている農家の割合は低かった。営農者が抱える問題を専業業別に比較したところ、専業農家は干拓地の農地設備を問題点として取り上げる場合が多く、第二種兼業農家は経営に関する問題を多く抱えている傾向がみられた。今後 10 年での営農規模の展望については、過半数が現状の規模で営農を続けたいという希望を持っており、規模の拡大を考えている農家もある程度見られた。一方で、廃業を考えている農家も少なからずみられた。自己所有している土地のみで営農している農家は、借地のみで営農している農家に比べて、規模の縮小や廃業を考えている農家の割合が極端に高かった。廃業を考えている人は高齢化、後継者がいないことを理由として挙げていることが多かった。河北潟干拓地の償還金の問題は、現在でも干拓地営農の将来を考える上での障害となっており、償還金支払いが経営を圧迫していた農家の多くが今後の設備負担金については支払えないとしており、また償還金は支払えた農家でも、今後の負担金は支払えないとする回答が多かった。持続可能な農業への展望としては、地産地消、有機肥料の生産と堆肥化、総合的病害虫管理を求める回答が多かった。

キーワード：河北潟干拓地、アンケート、営農、償還金、持続可能性

はじめに

広大な水田の造成を目的として 1963 年に始まった国営河北潟干拓事業は、1971 年の干陸完了に至る間に、国の農業政策の大転換の影響を直接受け、干拓地の土地利用計画は「水田」から「畑作地」に変更された。1986 年からの本格営農にあたっては、これにより「畑」、「特殊畑（レンコン田）」、「酪農」といった稲作以外の営農が求められた。この事業により誕生した 1,079ha の農地に入植した農家は多くの困難を克服しながら、今日まで営農を続けている。

今回、干拓地農家の現状の問題点の把握と、干拓地農業の展望を考える上での基礎資料とするため、干拓地で農業を営む人たちを対象にアンケート調査を実施した。その結果のうち河北潟干拓地での営農の問題や期待に関する農家の回答については、既に高橋・番匠（2013）にまとめた。本報では、農地所有形態や専業・兼業、償還金の支払い状況等に注目して、それぞれの農家における河北潟干拓地での営農に対する問題点や将来展望のとらえ方の違いにつ

いて分析した結果について報告する。

実施内容と方法

アンケートは、河北潟干拓地の全営農者を対象に、営農状況、問題点、展望など、具体的な答えを得ることを目的として、23 項目の質問内容とした。A4 サイズ両面 2 ページ（全 4 ページ）のアンケート用紙を、返信用封筒を同封して配布した。配布には河北潟干拓土地改良区にご協力いただき、干拓地農家 268 名に郵送した。

結果と考察

回答状況と回答者の基本属性

河北潟干拓地の営農者を対象にアンケート 268 枚を郵送したところ、82 名の方から回答が得られ、回収率は 30.6% であった。全ての質問項目とそれに対する回答の集計は、資料として最後に添付した。

回答者の基本属性は、表 1 にまとめた。年齢とし

表 1. 回答者の基本属性.

年代	30 代	3
	40 代	4
	50 代	19
	60 代	27
	70 代	21
	80 代	4
性別	男性	72
	女性	3
住居エリア	金沢市	36
	かほく市	12
	津幡町	9
	内灘町	7
	野々市市	2
圃場エリア	湖南	33
	湖北	22
	湖東	17
	湖西	12
専兼業別	専業農家	31
	第一種兼業農家	14
	第二種兼業農家	27

ては 60 代が最も多く、続いて 70 代となっており、全回答者に占める 60 代以上の割合は 66.7%であった。一方、壮年とされる 30 代から 40 代は 9.0%であった。河北潟干拓土地改良区（2013）によると、実際の河北潟干拓地の農家の経営主（法人を除く）の年齢構成は、61 才以上が 71.6%，31 才から 50 才までが 11.5%であり、アンケートでは、それ以外の年齢層である 50 代の回答率がやや高かったことになるが、実際の年齢構成とは大きな隔たりはなかった。専兼業別の比率では、専業農家が 43.1%，第一種兼業農家が 19.4%，第二種兼業農家が 37.5%であり、専業農家比率が高くなっている。これは、干拓地農家の実際の専兼業別比率を反映しているものと思われる。ちなみに全国の統計では、2013 年度の専業農家が 28.5%，第一種兼業農家が 14.1%，第二種兼業農家が 57.3%となっている（総務省統計局, 2014）。

回答者の属性のうち特に営農に関わる属性については表 2 にまとめた。個人経営が 94%に対して法人は 6%であった。河北潟干拓土地改良区（2013）のまとめによれば、干拓地農家に占める法人経営の

表 2. 回答者の営農に関する属性

経営形態	法人	5
	個人	75
耕地面積	60a 以下	8
	61-120a	19
	121-180a	8
	181-480a	34
農地保有	481a 以上	12
	自己所有地	70
	借地	16
	その他	11

表 3. 専兼業別と作付けとの関係.

	穀類	レン コン	野菜	果樹	酪農	その他
専業	10	6	13	4	2	0
第 1 種兼	4	2	2	3	1	1
第 2 種兼	12	1	10	5	1	1

表 4. 販路について

市場のみ	21
農協のみ	12
直売のみ	7
契約販売のみ	5
主に自家消費（飼料作物除く）	2
複数販路	16

割合は 14.1%であるので、アンケートの結果は、個人経営者の方向にややバイアスがかかっているものと思われる。

専兼業別の栽培作物の比較は表 3 に示した。複数の品目を扱っている農家が多かったが、専業農家でレンコン専門に栽培している農家の割合が大きいのが特筆される。その他には、専兼業間での栽培作物の大きな相違は見られなかった。専業農家には穀類のみを栽培している農家が目立ったが、第二種兼業農家についても穀類のみを生産する農家が多く見られ、単一の作物を栽培する傾向は専業、兼業に関わらず見られた。

耕地面積については、120 a 以下がアンケート回答者 33.3%に対して河北潟干拓土地改良区（2013）

表 5. 営農者が抱える問題点についての専業別比較.

	専業農家				第一種兼業				第二種兼業			
			小計				小計				小計	
	回答	%	回答	%	回答	%	回答	%	回答	%	回答	%
農地設備に関する問題												
農業用水（水質）	16	19.3			5	13.5			8	11.4		
排水路、パイプライン	5	6.0	33	39.8	1	2.7	8	21.6	3	4.3	13	18.6
土壌、ほ場の水はけ	12	14.5			2	5.4			2	2.9		
自然環境に関する問題												
雑草	10	12.0			6	16.2			10	14.3		
病害虫	2	2.4			3	8.1			1	1.4		
カモ・ネズミなど鳥獣害	14	16.9	29	34.9	11	29.7	21	56.8	6	8.6	21	30.0
風雪害	2	2.4			1	2.7			3	4.3		
農薬	1	1.2			0	0.0			1	1.4		
農業経営に関する問題												
農業機械	4	4.8			0	0.0			4	5.7		
販路	2	2.4			1	2.7			2	2.9		
労働力の不足	2	2.4	18	21.7	0	0.0	7	18.9	4	5.7	34	48.6
高齢化、後継者	9	10.8			3	8.1			12	17.1		
価格の低迷	1	1.2			3	8.1			12	17.1		
その他	3	3.6	3	3.6	1	2.7	1	2.7	2	2.9	2	2.9
	83	100			37	100			70	100		

回答者 72 名の複数回答ありの結果を示している。百分率は農家タイプ毎の全回答に対して求めている。

の資料では 37%（以下括弧内に土地改良区資料を示す）、121-180 a が 10.0%（13%）、181-480 a が 42.0%（33%）、480 a 以上が 14.8%（17%）であり、大規模農家のアンケートへの応答がやや低く、中規模農家がやや高い結果となっている。

生産物の販売方法としては、市場に出荷するとの回答が最も多く、本質問に対する回答者数のうち 42.3% が市場への出荷を行っている。直売所で販売する農家も多く 26.8% となった。販路を複数持っている農家の割合は低く、22.5% に留まっている。また、このうち 3 つの販路を持っているのは 5 軒で、他は 2 つの販路が回答されている。また、市場に出荷している農家 30 軒のうち、市場のみを販路としている農家が 21 軒、その他、農協だけを販路としている農家が 12 軒、直売所だけを販路とする農家が 7 軒であった（表 4）。複数の販路を持つことは販路開拓への積極性として評価できるが、ひとつの強力な販路において安定した経営を行うことができていることで複数の販路開拓を持つ必要が無い場合も

あり、本結果のみから農業経営への評価をすることは危険である。

干拓地農家が抱える問題

営農者が抱える問題を専業別に比較したところ、専業農家は干拓地の農地設備を問題点として取り上げる場合が多く、第二種兼業農家は経営に関する問題を多く抱えている傾向がみられた（表 5）。農業経営に関する問題としては、高齢化や後継者問題を挙げると同時に価格の低迷を挙げた第二種兼業農家が 12 名いたのに対して、専業農家では 1 名だけであり大きく異なっていた。また自然環境に関する問題点では、専業農家と第一種兼業農家がカモ類やネズミ類などの鳥獣害を問題点として挙げる傾向が強かったのに対して、第二種兼業農家は雑草被害を問題とする傾向がみられ、鳥獣害やその他の自然環境からの問題点はあまり抽出されなかった。専業農家や第一種兼業には河北潟干拓地においてブランド化が進んでいるレンコンを栽培する農家や大規模に穀

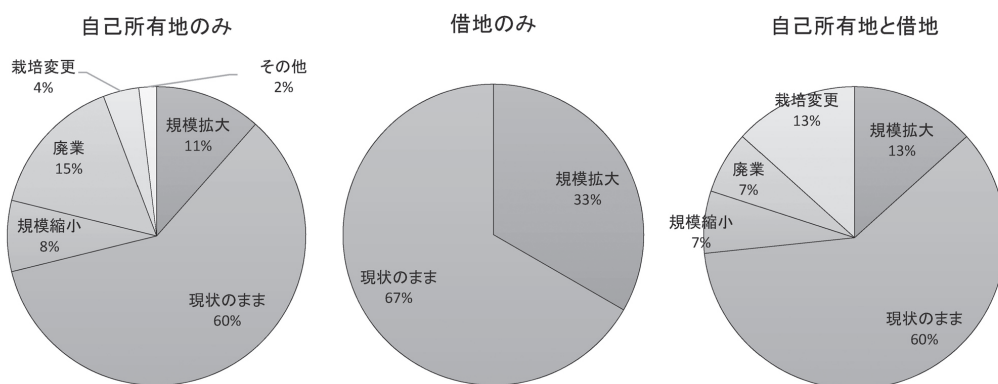


図1. 「今後10年どのように干拓地で農業を続けていきますか」に対する土地所有形態毎の回答

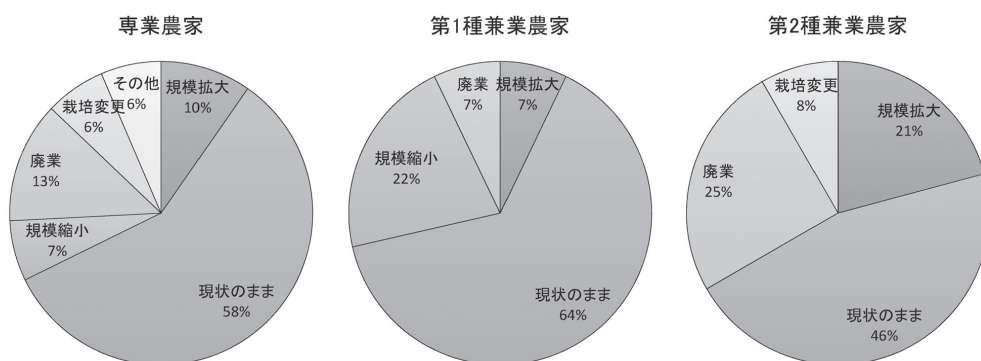


図2. 「今後10年どのように干拓地で農業を続けていきますか」に対する専兼業毎の回答

類を栽培する農家があり、比較的価格が安定している品目を扱っている傾向がみられることから、価格に関する問題意識は小さく、一方で商品価値の高い作物が直接の被害を被る鳥獣害を問題とする傾向になって現れているものと思われる。

営農の将来展望

今後10年での営農規模の展望については、過半数が現状の規模で営農を続けたいという希望を持っており、規模の拡大を考えている農家が9軒(12.1%)見られた。一方で、廃業を考えている農家が12軒(16.2%)、規模の縮小を考えている農家が5軒(6.8%)みられた。本データを回答者の特性のうち土地の所有形態により分析したところ、自己所有している土地のみで営農している農家は、借地のみで営農している農家に比べて、規模の縮小や廃業を考

えている農家の割合が極端に高いことが示された(図1)。通常は、土地を有している方が営農上は有利であり、同時に転業が難しいと考えられるが、河北潟干拓地では、高額な土地購入費(償還金)に対して(桂木, 2010)、石川県が所有している未入植地等253haをきわめて安価な借地料で貸すことにより未耕作地の解消を図るという対策をとっていることから、持つより借りの方が有利という状況が生まれているものと考えられる。

営農規模の展望について専兼業別で比較したところ、第二種兼業農家において、専業農家や第一種兼業農家よりも廃業を考えている農家の割合が高かった。一方で、第二種兼業農家では、規模拡大を考えている農家の割合も他のグループと比べて多くなっていた(図2)。第二種兼業農家は、規模の小さい農家が多いことから、柔軟な将来見通しとなっている

表6. これまでの償還金の支払状況と今後の負担金について(2つの質問への回答数をマトリクスで示した).

		設備修繕・改善の新たな負担金について			
		やむ得ない	やむを得ないが 支払えない	やむを得ないと は思わない	わからない
償還金の支払いを伴う営農について	成り立たなかった	4	14	3	1
	見通しが立たなかった	0	4	0	0
	なんとかあった	12	14	6	2
	問題なかった	1	1	2	2

注) 2つの質問の両方に対して回答があった場合のみをカウントしてしており, 質問毎の集計結果と数値は一致しない.

ことが考えられる.

廃業を考えている人は高齢化, 後継者がいないことを理由として挙げていることが多かった. 営農規模の拡大を考えている人の回答には後継者がいるという回答があったことから, 干拓地農家にとって詳細を展望する上で, 後継者の有無が大きな課題となっていることがうかがえる.

河北潟干拓地の償還金の返済期間は2010年度をもって終了したが, 滞納金を抱える農家などの問題が現在までも続いており, 干拓地営農の将来を考える上での障害となっている. 償還金の支払いについての質問については, 問題なかったとする回答は, わずか6軒(7.9%)であり, 償還金のために農業経営が成り立たなかった, 先の見通しが立たなかったとする回答が合わせて26軒(34.2%)見られた.

現在, 干拓地の灌漑施設をはじめとする干拓事業により整備された諸設備が既に老朽化してきており, 近々設備の更新が必要となっていることから, 今後の設備負担金についての質問を行ったが, 今後の負担金をやむを得ないという回答が21軒(26.6%)であったのに対して, やむを得ないと思うが支払える状況ではないという回答が39軒(49.4%)であった. また, 償還金支払いが経営を圧迫していた農家の多くが今後の負担金は支払えないとしており, また償還金は支払えた農家でも, 今後の負担金は支払えないとする回答が半数程度見られた(表6).

河北潟干拓地の持続可能性

河北潟干拓地を持続可能な農業へ導く展望としては, 地産地消を挙げた農家が39軒(57.4%), 有機

肥料の生産と堆肥化を挙げた農家が36軒(52.9%)と多く, また, 総合的病害虫管理を意味する設問への回答も23軒(33.8%)見られた. このように, 全般的に環境保全型の農業への展開を望む意見が多かった.

営農の持続可能性を見る上で, 将来の干拓地の農業以外の利用を問うたところ, 農業以外に利用した方がよいとする回答は28軒(35.4%)であった. その他の多くの農家は, 干拓地が農業のみに使われることを望んでいたが, 将来, 廃業を考えている農家だけで見ると, 66.7%が他の利用を望んでするという回答であった. 農業以外の利用をよいとする回答者にその用途を尋ねたところでは, 工業団地, 太陽光や風力発電との回答が多く寄せられた.

今回のアンケートを通じて, 経営が成り立たない農家の姿も浮かび上がってきたが, 同時に, 問題を抱えながらも力強く河北潟干拓地で営農を続けていく気持ちを持っている農家も多いことが示された. また, 干拓地に魅力を感じる営農者の多くが, 干拓地の広大さと住宅への配慮が要らないこと, 農業に特化したエリアであることに魅力を感じていることがわかった. しかしながら, 全体としては厳しい経営状況にあり, 現状の維持で精一杯であることがみてとれる. 将来の持続可能な干拓地農業の共通のビジョンを持って干拓地農業が進んでいく方向を見いだしていくのが次の課題である. 干拓地の多面的利用についての質問に対しては, 直売所や道の駅の建設, 市民農園・体験農園の回答がともに40%程度で多かった. こうした農家の回答傾向は, 金沢市近郊

に位置し、さらに加賀と能登とを繋ぐ位置にある河北潟干拓地の農業振興のための重要な提案として受け止めることができる。

謝 辞

アンケートの実施及び回収にあたっては、河北潟干拓土地改良区より、多大なご協力を賜った。本調査は河北潟湖沼研究所の平成 23 年度河北潟グループ研究奨励助成を受けて実施したものである。各機関及び関係諸氏に深く御礼申し上げる。

文 献

- 河北潟干拓土地改良区. 2013. 河北潟干拓地の概要. 24pp.
- 桂木健次. 2010. 河北潟国営干拓化の半世紀. 河北潟総合研究. 13:1-4.
- 総務省統計局. 2014. 平成 25 年農業構造動態調査. e-Stat. <http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/List.do?lid=000001117321>.
- 高橋奈苗・番匠尚子. 2013. 河北潟干拓地農業者を対象にしたアンケート調査の結果. NPO 法人河北潟湖沼研究所通信かほくがた. 19 (1):4-5.

資 料

河北潟干拓地の農業者を対象に実施したアンケート調査の質問と回答結果

2012 年 3 月 1 日から 5 月 2 日にかけて配付したアンケート 268 名のうち 82 名から回答が得られた。

配布数	268
回収数	82
回収率	30.6%

質問【1】河北潟干拓地で営農をはじめたのは、何年頃ですか？

選択肢	回答数
1. 昭和 54 年	22
2. 昭和 55 ～ 59 年	24
3. 昭和 60 ～ 63 年	9
4. 平成元～6 年	5
5. 平成 7 ～ 11 年	6
6. 平成 12 ～ 16 年	7
7. 平成 17 ～ 22 年	6
8. 平成 23 ～ 24 年	1

(回答者数 80)

河北潟干拓地で本格営農が開始されたのは、昭和 61 年であるが、アンケート回答者の約 57.5% が、昭和 50 年代の暫定営農の頃から開始した方であった。

質問【2】経営形態について教えてください。

選択肢	回答数
1. 法人経営である	5
2. 個人経営である	75

(回答者数 80)

個人経営者が回答者の約 93% をしめていた。

質問【3】河北潟干拓地での耕地面積はどれくらいですか。

選択肢	回答数
1. 60a (1 区画) 以下	8
2. 61 ～ 120a	19
3. 121 ～ 180a	8
4. 181 ～ 300a	20
5. 301 ～ 480a	14
6. 481a 以上	12

(回答者数 81)

さほど偏りはなかったが、181 ～ 300a (3 ～ 5 区画) が回答者の約 25% をしめ、60a (1 区画) 以下および 121 ～ 180a がそれぞれ 10% であった。481a 以上と回答した方は、主に米、麦、大豆、牧草の生産者であった。

質問【4】土地の保有状況について教えてください。

選択肢	回答数
1. 自己所有地である	71
2. 借地である	16
3. 土地を貸している	6
4. その他	3

(回答者数 81)

* 選択肢 1 と 2 の両方を回答した方が 13 名。

* 選択肢 1 と 3 の両方を回答した方が 2 名.

* 「4. その他」と回答した 3 名のうち、2 名は「自己所有地 + 借地」という回答であった.

上記の回答を以下に整理した.

選択肢	回答数
1. 自己所有地のみ	56
2. 借地のみ	3
3. 自己所有地 + 借地	16
4. 土地を貸している (自己所有地 + 土地貸し)	6

(回答者数 81)

質問【5】生産物を教えてください。(加工品については主な品名をお書きください)

自由回答	回答数
【穀類】大麦, 小麦, 加工米, 米, 大豆	28
【レンコン】レンコン	10
【野菜】スイカ, キャベツ, 小松菜, ブロッコリー, 大根, スナックエンドウ, 里芋, サツマイモ, トマト, ミニトマト, キュウリ, なす, オクラ, 玉ねぎ, 長ネギ, 小豆, 原木椎茸, ニンニク, 水菜, 葉菜	26
【果樹】梨, ぶどう, メロン, 柿, 銀杏	13
【酪農】牧草, 飼料作物, ソルゴー, 牛乳	4
【その他】雑草, 水田にしたい	2

(回答者数 72)

質問【6】生産物の販売方法は何ですか。(複数回答可)

選択肢	回答数
1. 直売所で販売	19
2. 地元スーパー	6
3. インターネット	3
4. 市場へ出荷	30
5. 契約販売	12
6. 自家消費が主	4
7. その他	18

(回答者数 71)

* 「7. その他」では農協と回答した方が 12 名.

市場へ出荷している方が多く、回答者の約 42% をしめていた.

質問【7】河北潟干拓地の魅力を 1 つあげるとしたら何ですか. 例: 広大さ, 牧歌的風景, 市街地近郊, ひまわり, 畑作酪農地帯, 野鳥の宝庫など

自由回答	回答数
農業のためのエリア・営農のしやすさ・広大さ	40
畑作酪農地帯	
市街地近郊	10
【その他】「砂丘地より良品質のぶどうが出来る素地がある」, 「春と秋が最高. 一日中太陽が当たる」, 「すばらしい魅力のある土地」, 「牧歌的風景」	4 (各 1)
無し, 別に	6

(回答者数 60)

質問【8】これから農業をしたいという方に、河北潟干拓地での農業をすすめたいですか.

選択肢	回答数
1. すすめたい	32
2. あまりすすめられない	32
3. すすめたくない	9

(回答者数 73)

回答者の約 44% の方が「すすめたい」を選択した.

質問【9】現在、河北潟干拓地で農業を行っていて、営農に支障をきたすこと、改善が望まれることなど、問題が大きい順に3つまで選んで○をつけてください。(0～3つまで回答可)

選択肢	回答数
1. 農業用水（水質）	33
2. 雑草	29
3. 排水路，パイプライン	10
4. 土壌，ほ場の排水	18
5. 病害虫	6
6. カモ・ネズミなど鳥獣害	33
7. 風雪害	7
8. 農薬	2
9. 農業機械	9
10. 販路	5
11. 労働力の不足	7
12. 高齢化，後継者	28
13. 価格の低迷	20
14. その他	7

(回答者数 79)

「農業用水（水質）」と「カモ・ネズミなど鳥獣害」が同数で回答者の約42%の方が選択した。次いで、「雑草」，「高齢化，後継者」が多かった。

質問【9】について、とくに問題に感じていることの詳細をお聞かせください。

自由回答	回答数
【水の問題】 ・排水が悪い ・用水パイプライン，灌漑設備の老朽化 ・水質の悪さ ・冬期間水が止まるため周年栽培を目指しているにもかかわらず作目が限定される ・土壌（質）が悪いところがある ・水道水がないこと・9筆全部水田化したが，3筆排水が悪いので困っている ・水田が増えて，野菜が作りづらくなった。スピリングクラーが回らず，チューブかん水ができない。水が汚なくて困る。 ・冬季の土壌水分が根に障害，冬季の排水対策（表面排水の整備） ・夏期かん水時に著しく水質が悪く設備の日詰まりを来す	13

【食害の問題】 ・ネズミ，カモによる食害 ・冬季水田に水をはることによるカモの害が心配，冬野菜の農家は作付け出来ない ・カモによる蓮根の食害 ・ネズミの害が多大，雪の中で一部キャベツ等の葉が顔を出したところに鳥の害が多大にある	4
【後継者の問題】 ・後継者がいないこと ・高齢化	2
【防風林の問題】 ・防風林は自然木を育てる ・防風林が松くい虫等により減少しており，幹線道路沿や用水付近に，代替樹木の移植を検討してもらえたら ・防風林（杉の木）の葉が田に入って困る。上50cm程，土地改良区で切断できないか	3
【その他】 ・生産費年々上がっているのに，農産価格が低迷している。工業製品の為替レートで農産物を取り引きするのはおかしい。 ・耕作放棄や，不作付けなどの存在。→テレビなど不法投棄される。 ・負担金の支払いに不公平があったのでは。	

(回答者数 30)

質問【10】 行政に対して、要望や、改善してほしい点について教えてください。該当する番号に○をお願いします。(0～3つまで回答可)

選択肢	回答数
1. 河北潟干拓地生産物のブランド化、知名度向上のための取り組み	19
2. 生産物の質を向上させるための取り組み	15
3. 近隣住民が直売所を訪れやすいよう案内板の設置や、歩道の整備	4
4. 農業道路を通過する車両や、ゴミの不法投棄などに対する取り締まりの強化	45
5. 新規就農者に対する支援	7
6. 浄水の導水	22
7. 設備改善	7
8. 水質の改善	29
9. 減反政策による作付け制限の緩和	25
10. その他	5

(回答者数 78)

一番多い回答が、「4. 農業道路を通過する車両や、ゴミの不法投棄などに対する取り締まりの強化」で、回答者の約 58% の方が選択した。

* 「10. その他」の内容は以下の通り。

・ 水、道路の管理を無料で行ってほしい。 ・ 旧耕作道の補修 ・ 水田を増やしてほしくない、水田用の灌漑整備を考えてほしい (野菜生産者) ・ 盗難の防止対策、幹線道路の確保 (耕作者により通行止になっていて通れない事がある)
--

質問【11】 農業を進める上で、緩和してほしい制限はありますか。

自由回答	回答数
【米の生産調整に関して】 ・ 生食米への無条件作付け ・ 無条件で生食米を作らせて ・ 減反政策制限をなくして ・ 河北潟干拓地に、水稻の主食用生産枠を配分してほしい ・ 全主食米の生産 (現在は加工用米) ・ 畑の中で自分の家作物は米も作ってよい、家もよいにしてほしい - 米を加工米でなく普通の米にしてほしい ・ 主食米を作らせてほしい ・ 地目が (畑地) なので (田地) に緩和してほしい ・ 地目転換	17
【その他】 ・ TPP ・ コンビニなどの施設を干拓地内に設置できるようにして欲しい ・ "①ない②安心、安全で品質の良いもの生産" ・ 専業農家を育てる政策を ・ 加工米の改善 ・ 農地流通 ・ 商工会などで資金の申請が出て、保証協会が使える様にしてほしい。	7
【特になし、無理】 ・ ありません、とくになし ・ 食糧法、又は農地法の事項は緩和すると功罪があるので現行法の中でも充分対応出来ると考えられる ・ あるが全て法律にかかわるのでむり。	7

(回答者数 29)

質問【12】どのような展望をもって河北潟干拓地で営農をしていますか。あてはまる内容に○をつけてください。（複数回答可）

選択肢	回答数
1. 地元の活性化につながる農産物をつくる	20
2. 世界と競争できる農産物をつくる	12
3. 農法・技術の開発	9
4. 持続可能な農業, 安心・安全な農産物	42
5. 販路の拡大, ニーズに応える	14
6. とくに展望はない	20
7. その他	4

(回答者数 75)

「4. 持続可能な農業, 安心・安全な農産物」が最も多く、回答者の約 56% の方が選択した。

質問【12】について、展望の中で、現在どのような成果が得られていますか。

自由回答	生産物
大豆栽培での除草剤不使用。溝畔、畦畔の除草剤使用回数減（米、大豆）	米、大豆
水稻を作付けできるようになり、展望が少しよくなった。加工用米とはいえ、一歩前進した。	米
国営償還金がすんだので返済で？これからが楽しみ	麦、大豆
後向きな考え方ですが、国債価格が暴落して為替が円安になって農産物価格が回復できる。	大豆
金沢市農産物ブランド協会認定 15 品目の中の 1 品目として H7 年より認定されている！	レンコン
少しずつ知名度も上がり、消費者や加工メーカーの方々によるこんでいただいています。	麦、大豆、米
少しずつ販路拡大しているが、きたいにこたえるだけの出荷量を確保できていない。	スイカ、レンコン
味	スイカ、果樹
売上げ up	スイカ、芋、大根
一定量の収穫継続ができています	小松菜
減農薬化学肥料ができています。	トマト

スーパーへ直接売り込み、直売のコーナーを設けていただいている。	スイカ、キャベツなど野菜
利益を上げられる作物が限られており、特別良好な成果は出ていない。	野菜、米、果樹など
野菜の周年出荷によって継続的に売買してもらえ、今まではつき合のなかったバイヤーさんにも買っていただけようになった。	白菜など野菜
ぶどうの生産安定栽培技術が定着した（安価な設備） 地域の適応性品種も定まった他、今後の有望品種にも目途がたった（消費者ニーズを先取り）	ぶどう
地元の小学生や保育園児があそびにくる	牛乳、飼料作物

(回答者数 23)

質問【13】今後 10 年について、どのように河北潟干拓地で農業を続けていきたいと考えていますか。該当する番号一つに○をお願いします。また、その理由をお聞かせください。

選択肢	回答数
1. 現状のまま続けていきたい	42
2. 規模の拡大を考えている	9
3. 規模の縮小を考えている	5
4. 廃業を考えている	12
5. 栽培品目の変更を考えている	4
6. その他	2

(回答者数 74)

理由

自由回答
【1. 現状のまま続けていきたい】 ・後継者が見つからない. ・労働力, 農機能力, 資金等を考えると, 干拓地での規模拡大は難しく, 後背地で少し拡大したい. ・行政の先がわからない. ・専業農家でほかに道はなし. ・生産性の向上を目指します. ・個人で経営するので15ha~20haで適当と思う. ・水質が悪くて, 美味しいものが出来ません. 水質を良くしてほしい. ・体力, 気力に相応. ・労力がいっぱいいっぱい ・特に大きな問題は償還金の負担が大きく収支のバランスがとれない. 次に後継者の問題有り. ・河北潟は田であれば規模拡大を考えている. ・他に移動できないから. ・後継者に技術を伝えていきたい. ・ミッションと考えています. ・人間の本能である作る喜びを味わいたい.
【2. 規模の拡大を考えている】 ・巾広く作りたい. ・後継者もいるので少しずつ拡大したい. ・収入増. ・専業農家として規模が小さいため. ・ぶどうを栽培. 自然立地(土質, 冬季の北風)のマイナスに比べ, 太陽光線(日射量)のプラスが大きい. ・生産量を増やす
【3. 規模の縮小を考えている】 *書込なし
【4. 廃業を考えている】 ・利益があがらないから ・後継者がいない(同様の回答他1件) ・高齢化(同様の回答他1件) ・10年契約で貸した土地に果樹が植えられていることから返してもらえていない.

【5. 栽培品目の変更を考えている】

- ・水質が悪い(主な生産物: 米)
- ・年齢にあった作物をつくっていきたい(主な生産物: トマト)
- ・土地の高度利用による単価の高率, 切下げ(主な生産物: 米, 麦, 大豆)
- ・単品目だけでは, 農閑期に収入が無いので, または, 価格安時期の対策(主な生産物: レンコン)

【6. その他】

- ・元々家の農業のスタイルが畜産→稲作主体→露地野菜主体→施設野菜と露地野菜の混合と変わって来ているので今後も臨機応変的に時代に合ったスタイルをもとめた形で経営していきたい

(回答者数 34)

質問【14】これまで償還金の負担が課せられていましたが, 負担金の支払いはどのような状況でしたか.
(1つ回答可)

選択肢	回答数
1. 収入よりも負担金の支払のほうが大きく, 成り立たなかった	22
2. 余裕がなく先の見通しが立たなかった	4
3. なんとかあった	35
4. 最近, 営農をはじめたので問題なかった	3
5. とくに問題なかった	6
6. その他	8

(回答者数 76)

*「6. その他」の内容は以下のとおり.

- ・繰り上げ償還した.
- ・無収入で負担だけがのしかかっていた. 負担金を払ったからくやしくて安い土地の値段で売れない.
- ・負担は大きかった.
- ・背後地の不動産収入でなんとかあった.

質問【15】河北潟干拓地では設備の老朽化がすすんでいます。そうした設備の修繕，改善のために今後，負担金が生じるとしたら，やむを得ないと思いますか。

選択肢	回答数
1. 思う	21
2. 思うが，支払える状況ではない	39
3. 思わない	12
4. わからない	7

(回答者数 79)

「2. 思うが支払える状況ではない」の回答が一番多く，回答者の約 49% の方が選択した。

質問【16】河北潟干拓地は，パイプライン（暗渠用水）や，排水ポンプなど，機械管理が必要な構造となっています。干拓地を，持続性のある無理のない構造へと，抜本的に改善していく必要があると思いますか。（1つ回答可）

選択肢	回答数
1. あると思う	39
2. 思わない	5
3. 必要性はあるが無理と思う	26
4. わからない	8

(回答者数 78)

質問【17】河北潟干拓地は，農業以外に利用された方が良いと思いますか。

選択肢	回答数
1. 思う	28
2. 思わない	37
3. わからない	14

(回答者数 79)

【●上記で「1. 思う」と答えられた方にのみご質問です。たとえば，どのようなことに利用された方がよいと思いますか。】

自由回答	回答数
工業団地	4
太陽光や風力発電	4
飛行場	2

・公園，身近に農業とふれあえる場	各 1
・農業のじゃまにならないもの	
・自分の家	
・宅地化	
・温泉を掘り人の集まる観光地	
・食品加工場	
・農業主体でありつつコンビニやホームセンターなどあっても良い。	
・野球場，サッカー場，テニスコート	
・この広大な場所へ低価格で入居できる老人ホーム等を建設して県内の大規模な福祉施設を建設する	
・商業・工業・エネルギー等に利用する滞在型市民農園（クラインガルテン）	
・子供達の為に安全なサイクリングロード作りや，フラワーパーク（全季節）等。	

(回答者数 21)

質問【18】河北潟干拓地は，1区画 60a ととても広大ですが，こうした大区画の農地は良いと思いますか。（0～3つまで回答可）

選択肢	回答数
1. 農業しやすくて良い	54
2. 大型の機械が入られるので良い	36
3. 大型機械を要する農業は良くない	5
4. 区画が大きすぎて管理しきれない	5
5. なにかと金がかかり良くない	6
6. その他	3

(回答者数 76)

「1. 農業しやすくて良い」の回答が一番多く，回答者の約 71% の方が選択した。

質問【19】河北潟干拓地には耕作していない草場がところどころにみられますが，そうした未耕作地をどう思いますか。（1つ回答可）

選択肢	回答数
1. 景観上問題	18
2. まわりの農産物に悪影響がでる	41
3. とくに何も思わない	14
4. ところどころに未耕作地があったほうが良い	3

(回答者数 75)

質問【20】河北潟干拓地の多面的な有効利用として推進されてほしい内容の番号に○をつけてください。(0～3つまで回答可)

選択肢	回答数
1. 交流・学習施設、博物館などの設置	14
2. ふれあい牧場、羊や牛による除草	14
3. 市民農園、体験農園、援農	26
4. ビオトープ、自然観察園	10
5. 野生植物など未利用資源の活用	7
6. 浸透水を利用した給水スタンドの増設	13
7. 実験場、研修会	16
8. 直売所、道の駅	27
9. その他	4

(回答者数 67)

質問【21】河北潟干拓地に望まれる環境保全活動に○をつけてください。(0～3つまで回答可)

選択肢	回答数
1. 景観保全のための草刈り	44
2. セイタカアワダチソウなど野生植物の活用	13
3. 農薬削減	14
4. 動植物、自然環境の調査・研究	10
5. 有機農業の普及	15
6. 水田の冬期湛水、低湿地ビオトープ保全	7
7. 農業体験・研修・学習会	18
8. 参加型の管理活動や生物調査(観察会)	5
9. その他	5

(回答者数 63)

農業にかかわるところで、「3. 農薬削減」と「5. 有機農業の普及」はあわせて25名・約40%の方が選択しており、その両方を選択した方が4名いる。

質問【22】持続可能な農業として、河北潟干拓地に望まれる内容に○をつけてください。(0～3つまで回答可)

選択肢	回答数
1. 地産地消	39
2. 化学肥料や化学農薬を使わない農業	16
3. 品種改良	15
4. 有機肥料の生産と堆肥化	36
5. 益虫、益獣を増やし、害虫、害獣を減らす環境づくり	23
6. 食育	11
7. その他	2

(回答者数 68)

質問【23】あなたの年齢、性別、お住まいなどについて教えてください。

●年齢

選択肢	回答数
1.10代	0
2.20代	0
3.30代	3
4.40代	4
5.50代	19
6.60代	27
7.70代	21
8.80代以上	4

(回答者数 78)

●性別

選択肢	回答数
1. 男性	72
2. 女性	3

(回答者数 75)

●お住まいの地域

選択肢	回答数
金沢市	36
内灘町	7
かほく市	12
津幡町	9
野々市市	2
不明	11

(回答者数 77)

●河北潟干拓地での生産場所はどこですか.

選択肢	回答数
1. 湖北	22
2. 湖南	33
3. 湖東	17
4. 湖西	12

(回答者数 76)

●あなたの家は次のどれにあたりますか.

選択肢	回答数
1. 専業農家（世帯員中に農業以外に就業している兼業従事者がいない）	31
2. 第1種兼業農家（農業での収入が全収入の50%以上で、世帯員中に1人以上の兼業従事者がいる）	14
3. 第2種兼業農家（農業での収入が全収入の50%未満で、世帯員中に1人以上の兼業従事者がいる）	27

(回答者数 73)